

基礎実習（生活科・総合的な学習の時間）における模擬授業づくりの実践

Lesson planning practice in basic teaching practice: About living environment studies and period for integrated studies

生田 淳一

Junichi IKUTA

冨安 浩樹

Hiroki TOMIYASU

齋藤 淳

Jun SAITOU

(教育心理学講座・生活総合教育講座・附属福岡小学校)

(平成29年10月2日受理)

要 約

本論文は、基礎実習において実施されたアクティブ・ラーニング型の授業の実践について報告したものである。学生の授業を構想していく力を育むために、授業づくりを中心にしたグループ活動による実践を構想し、実施した。この実践により、従来の基礎実習の授業実践が抱えていた、いくつかの課題を解消するだけでなく、学生のふりかえりの記述からは、主体的で対話的な学習を引き出したことがうかがえる。今後は、生活科、総合的な学習の時間に限らず各教科等のアクティブ・ラーニングによる授業づくりを検討するときにも役立てることができると考えられる。

キーワード：教育実習、基礎実習、授業づくり、アクティブ・ラーニング

I. 問題

1. 基礎実習の取組

福岡教育大学（以下、本学）では、基礎実習を教育実習に不可欠な授業として、2年生後期に必修1単位で設定している。基礎実習は、授業を構想していく力を、附属学校や協力校の協力を得て身につけさせることを目指す授業である。本学では、大学の教科教育と教育実習とをつなぐ中核となる授業として位置づけられている。

基礎実習では、各教科、道徳などの授業を実際に構想する力つけさせるため、また、本実習前に実際の教室・学習者を念頭に置いてシミュレーションを重ねて、実習に行っても安心して教壇に立てるようにするため、次のような内容の取組を行っている（授業計画のモデルは、表1に示す）。①指導案の検討、教材研究をして授業に臨み、メモを取りながら参観し、指導者の願いと創意がどこにこめられているかを探ること。②学習指導案を自分で書くこと。③模擬授業を試みて、児童の学ぼうとする心、伸びようとする心をはぐくむ学習指導へと練り上げること。実施に際しては、表1のような授業計画をもとに、実際には各教科等の性格なども考え合わせて弾力的な運用がはかられている。

本学の学生は、主に学習している教科の基礎実習を受講している。基礎実習（生活、総合的な学習の時間）では、生活総合教育選修、教育心理学選修、特別支援教員養成課程（初等部）のうち生活科、総合的な学習の時間を選択した者が受講している。

本研究では、基礎実習の取組の中核となる、授業を

づくり実施する活動、特に授業をつくる活動に着目したアクティブ・ラーニング型授業の実践について報告する。

2. 生活科とアクティブ・ラーニング

「アクティブ・ラーニング」における、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」は、各教科等の授業改善の取組に共通する重要な視点である（文部科学省、2017）が、生活科とアクティブ・ラーニングは、特に親和性が高い。

生活科では、児童の思いや願いの実現に向けた学習活動、つまり、自ら意欲的に学ぶことが重視され、このことは、アクティブ・ラーニングにおける、「主体的な学び」と関連が深く、また、生活科には、言葉などを使った言語活動等によって思考を促すことを目指した「生活や出来事の交流」の内容及び、この内容は、すべての単元と関連づけることが推奨されていることを考えると、アクティブ・ラーニングにおける、「対話的な学び」と関連が深く、さらに、生活科では、気付きの質を高めていくことが強く提唱され、つまり、対象に対する認識を深めることが要請されているが、これは、アクティブ・ラーニングにおける、「深い学び」と関連が深いと考えられる（文部科学省、2008a；文部科学省、2017）。

このようなことから考えると、現在のようにアクティブ・ラーニングについて広く言及されるようになる前から、生活科は、アクティブ・ラーニングの特質を備えた教科であったし、今後も、より充実したアク

表1 本学における基礎実習の授業内容

- 1 授業構成要素と授業過程の基本を知らせる……観察参加の際の指導案・授業記録などを手がかりにして、授業が目的的な営みであることを知らせ、各教科（各領域）において基本的な授業をいかに構成するか（導入・展開・終結）を理解させる。学習指導案を書き上げることが、授業を実践していく力といかに密接に結びついているかに気づき、授業実践を工夫する意欲が湧くように導く。当然、子どもとの接し方、発問・板書などにも言及していく。
- 2 附属学校・協力校で取り上げられる教材の事前研究を大学で行う。
- 3 附属学校における授業研究……学習指導案と照らし合わせながら、教師の目指していたものが、実際の授業ではこのように繰り返されたということの意味を探らせ、協議会に参加させて、授業を見る目を養う素地を作る。
- 4 附属学校における授業研究で得たことを持ち寄り、学習指導案やビデオ・授業記録をもとに、授業を構想し、創り出して行く時に何が肝心なことかを見いだすようにさせる。そして、授業の練り上げにもうこれでよいということはないことを自覚させる。
- 5 協力校における授業研究……教科の授業を参観し、指導された先生がどこに力を注がれており、児童生徒にどういう力をつけておられるか、授業の価値は何に着目すれば見えてくるかを学び取るようにする。授業後の協議会等に参加し、どうすれば教師としての力量を身につけることが出来るかという手がかりを得るようにする。
- 6 自分たちで学習指導案を作成する際に不安なこと、疑問点を出し合わせ、実際に学習指導案をどのように作成していくかという点について、見通しをつけさせる。
- 7 大学において自分たちで教材を選んだり探したりして、自力で学習指導案を作成し、模擬授業を試み、記録が残るようにして検討し合い、授業創造への意欲を高めていく。
- 8 附属学校・園の教員に実地指導講師として大学に来ていただき、授業技術や学習者との接し方、教えることの喜びについて話していただく。
- 9 半期の「基礎実習」を通しての成果と課題を自覚させ、現時点における自らの指導力診断を試みさせ、これから教育実習に向けて、さらにどのような力をつけていくか、計画を立てさせる。

ティブ・ラーニングによる授業づくりが求められているといえよう。

3. 生活科の学習内容について

生活科の学習内容の構成の重要な観点は、①自分と人や社会とのかかわり、②自分と自然とのかかわり、③自分自身の三点であるが、これは、自分と対象とのかかわりを重視する生活科の内容の構造の原則を示したものであり、また、OECDのキー・コンピテンシーとも親和性が高い（文部科学省、2008a）。

生活科には九つの内容があり、「学校と生活」、「家庭と生活」、「地域と生活」は、児童の身近な環境やフィールドを対象とした学習活動で、「公共物や公共施設の利用」、「季節の変化と生活」、「自然や物を使った遊び」、「動植物の飼育・栽培」、「生活や出来事の交流」は、自らの生活を豊かにするために低学年の時期に体験しておきたい学習活動であり、「自分の成長」は、自分自身の生活や成長に関する学習活動で、一つの内容だけの単元構成の学習も考えられるが、「生活や出来事の交流」もそうであるように、すべての内容との関連づけることも望まれている（文部科学省、2008a）。

なお、各内容でよくとりあげられる活動や体験は、「学校と生活」では学校探検、「家庭と生活」では手伝い、「地域と生活」では地域の探検、「公共物や公共施設の利用」では公園の利用、「季節の変化と生活」では木

の実の発見や地域の行事の参加、「自然や物を使った遊び」では風やペットボトルを使った遊び、「動植物の飼育・栽培」では小動物の飼育や花の栽培、「生活や出来事の交流」では地域の人との交流、「自分の成長」では成長の振り返りがある（文部科学省、2008a）。

これらのことを鑑み、本研究で論じる授業においては、低学年の時期に体験しておきたい学習活動である「公共物や公共施設の利用」、「季節の変化と生活」、「自然や物を使った遊び」、「動植物の飼育・栽培」等から、いくつかの内容をとりあげ、受講生が生活科の授業づくりのあり方を学ぶことを目的とした。

なお、九つの内容の記述には、原則、①学習対象や学習活動等、②気付きなどの思考や認識等、③各内容の学習活動ではぐくまれる能力・態度等の三要素が組み込まれ、たとえば、「季節の変化と生活」では、①身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどする、②四季の変化や季節によって生活の様子が変わること気付く、③自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにしている（文部科学省、2008a）。

II. 方法

1. 模擬授業づくりの取組の経緯

基礎実習（生活、総合的な学習の時間）においても、その実施の主旨を踏まえて、模擬授業を実施する

表2 模擬授業づくりを中心にした授業の進め方

段階	時間	活動	内容
1	10	教員による課題の提示	○学習指導要領解説(生活科編)をもとに、本時で取り上げる課題(内容)を紹介した。 ○グループワーク等の進め方について説明した。
2	5	グループづくり	○毎回、異なったメンバーと活動できるように、トランプを利用してグループづくりを行った。 ○1グループ4名を基準とした。
3	5	アイスブレイキング	○自己紹介(名前、所属、好きな食べ物など)を行わせた。 ○司会役は、トランプのスペードのものが担当するように指示した。
4	20	授業づくり(グループ)	○指定された内容について、学習指導要領解説を参考にしながら、グループで、目当て、発問計画(導入のみ)、予想される子供の反応、板書計画を作成するよう指示した。
5	20	交流・模擬授業	○ワールドカフェ形式で、同じ班のメンバーがいないように、一人を残して、他のグループのテーブルに移動するように指示した。 ○各グループで作った発問計画を紹介した後に、導入部分を実演するように指示した。
6	10	ふりかえり(グループ)	○もとのグループに戻り、他のグループで学んできたことを紹介し、交流するよう指示した。
7	5	ふりかえり(個人)	○今日の模擬授業づくりをふりかえっての感想、気づきをワークシートに記入するよう指示した。
8	15	教員によるふりかえり	○何人か指名し、感想を読ませる。 ○模擬授業づくりの活動について、学生のふりかえりの内容等についてコメントした。

時間を設けていた。しかし、受講生が30名を超えることから「すべての学生が模擬授業をすることができない」、「授業づくりをグループごとの課外活動として行くと、フリーライダーをうみ出してしまい、一部の学生しか学べない」といった課題を抱えていた。

その課題の解決を模索している中、附属学校の教員に実地指導講師として大学に来て授業いただく時間(表1, 項目8参照)において実施された、第三筆者の授業は、抱えていた課題を解消してくれるような内容であった。その授業で行われた「授業づくり」を中心にした活動は、グループ形式で実施され、グループで作った内容を発表するというものであった。まさにアクティブ・ラーニング型のこの授業の活動は、活気があり、学生の主体性も高まっている状況がうかがえた。また、短い時間ではあるものの、すべての学生が授業を実施できるという点でも優れていた。

2. 模擬授業づくりの進め方

この実践のポイントは、これまでの模擬授業を中心にした活動ではなく、「授業づくり」を活動の中心にしたことと、グループワークを取り入れたところにある。先に述べたように、「アクティブ・ラーニング」における、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」は、各教科等の授業改善の取組に共通する重要な視点である(文部科学省, 2017)が、生活科とアクティブ・ラーニングと特に親和性が高い。そこで、この実地指導講師が提案した方法を、「模擬授業づくり」

活動として位置づけ直し、授業に取り入れることにした。ただし、進め方等は、実地指導講師の力量によることも大きかったことから、基礎実習の時間において繰り返し実施できるように、大学教員がさらに検討を進めて、表2のように構造化し直すことにした。

3. 模擬「授業づくり」ワークシートの作成

活動をスムーズに進めることができるように進め方に対応させた、「1内容」、「2単元」、「3本時の主眼」、「4めあて」、「5発問計画(導入のみ)」、「6板書計画」、「7模擬「授業づくり」のふりかえり」からなるワークシートを作成した。ここでは、代表的なワークシートへの書き込み(図1)とふりかえりの記述を以下に紹介する。

- 色んなアイデアを吸収したいと思います。
- 他の班の中で、子どもにそれができるのかな、といった内容のものがあ(省略)
- 授業づくりは簡単ではなかったけど、グループの中で意見を出し合いながら進めることができて、とてもやりやすかった。
- 自分たちでは、思いつかなかった様々な工夫を発見することができた。
- 短時間でたくさん意見が出て、考えていくことができた。そのあとのほかのグループの人たちとの交流では、みな同じように、学校探検をテーマに授業を考えていたが、導入の段階だけでも、それぞれ違っ

- 1. 生活科 内容 (|)
- 2. 単元 学校探検をしり
- 3. 本時の主眼 学校の施設の様子及び先生など学校生活を支える人々に気付かせ
- 4. めあて 学校探検をして 学校について もっと知ろう

5. 発問計画 (導入のみ)

段階	発問	予想される子供の反応
前時の おぼえ	○学校にはどのような教室(もの)が ありますか? 場所,	○「音楽室!」「ボール」 「理科室!」「給食室」 「運動場!」
導入	○学校にはどのような先生が (いますか?) (何をしますか?)	○「校長先生!」 「保健室の先生!」 事務室の先生

6. 板書計画 (導入のみ) ビジュアルカード ← 先生方にも作成してもらって
スラップをおこなってもらおう。 ← 予習カードとかはなし

めあて
「かんこうタイムをしり、かんこうについて もっとしり」

まねのしりまわりのおぼえ

「はし」	「はと」
○おんがくしり	○こうちきせむせい
○ボール	

模擬「授業づくり」のふりかえり (感想)

生活科の授業には正解がないため、工夫しよと思われど「なげても工夫しよのど」
 知らぬ難いなあと思つた。同じ「学校探検をしり」という単元でも、全員が同じところに行く、
 班ごとに行く場所を決めよ、1ヶ所に集よ、といふのは、方法が全然違つた
 のど おもしろいと思つた。どのグループも、リズ形式を取り入れよ、などの、子ども達に
 興味をもってもらつた工夫がなされたので、残りの講義でもアイデアを吸収したいと思つた。

図 1 模擬授業づくりワークシートの記述例

- たものになつていて新鮮だつた。取り入れたいと思つたことや、改善点を話し合ふことができ、意見を出し合ふことで、よりよい授業づくりができそうだと思つた。
- 残りの講義でもアイデアを吸収したいと思う。
 - 他の班の考えを聞いて、こんなやり方もあるんだととてもためになった。
 - 他の班の意見も参考になり、特に「クイズラリー」という方式から、学校の各場所に行き、その担当の人に質問する授業はよいなと思つた。
 - こうやって、他の考えを交流し合ふのは、楽しいし、自分の力にもなると思つた。
 - もっと他の人の意見を交流させて、よりおもしろい

- 授業づくりができるよくなればと思つた。
- 「学校探検」という同じテーマの人でも、どんなふうに導入をするか、板書計画、発問、すべてにおいて同じものを考えている人はいないと思つた。
 - 他のグループと交流して、同じ内容だけど違うやり方で授業を進めていくのでこんなやり方もあるんだなど勉強になりました。
 - 皆で考えると短時間で良い案ができるんだと驚きました。他の人の思いもよらないアイデアがおもしろくて、自分で考えた授業と組み合わせたら、より深みのある活動ができるんじゃないかなと思つた。

Ⅲ. 成果と課題

このアクティブ・ラーニング型の授業実践は、学生の学びにとって有益なものと考えられる。学生の記述からも見られるように、学生が主体的にグループワークに取り組んでいる様子がうかがえる。また、他のグループから影響を受けるなど、対話的な学びのよさを感じることができている。このような学びを体験することは将来自分自身が、アクティブ・ラーニング型の授業を構想する際に大いに役に立つと考えられる。また、「すべての学生が模擬授業をすることができない」、「授業づくりをグループごとの課外活動として行くと、フリーライダーをうみ出してしまい、一部の学生しか学べない」といった課題についても十分に対応できるものになっていると考えている。一方で、生活科の内容についての理解、つまりレディネスに差があることへ対応できていないことや、交流の進め方が司会役の力量で差が大きいこと、グルーピングに偏りが生じることなどの課題も指摘できる。これらの課題については今後の実践の中で解消していきたい。

本研究では、アクティブ・ラーニングにおける、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の観点も考慮し、生活科の授業づくりについて論じてきた。今後、より充実したアクティブ・ラーニングにするには、「主体的な学び」を高めるために、動機づけの理論（上淵，2004）、「対話的な学び」を深めるために、協同学習の考え方（杉江，2016）、「深い学び」を深化のために、認知科学（佐伯・渡部，2010）等に学びながら、アクティブ・ラーニングによる授業づくりについて検討、考察する必要があるだろう。

生活科と関連の深い総合的な学習の時間でも、アクティブ・ラーニングによる授業づくりを考えることは価値あることだと思われる。

総合的な学習の時間では、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考える学習活動、つまり、自ら進んで学ぶことが重視され、このことは、アクティブ・ラーニングにおける、「主体的な学び」と関連が深く、ま

た、総合的な学習の時間では、多様な情報の収集、異なる視点から検討、共に学ぶことが学習の質を高めるといった理由で、協同して取り組む学習活動が提唱されていることを考えると、アクティブ・ラーニングにおける「対話的な学び」と関連が深く、さらに、総合的な学習の時間では、①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現、といった発展的に繰り返していく探究的な学習を重視することから、アクティブ・ラーニングにおける、「深い学び」とも関連が強いと考えられる（文部科学省，2008b；文部科学省，2017）。

このようなことを考慮すると、アクティブ・ラーニングによる生活科の授業づくりに基づき、生活科と関連の深い総合的な学習の時間のアクティブ・ラーニングによる授業づくりを考えることは価値あることだと考えられる。さらには、生活科、総合的な学習の時間に限らず各教科等のアクティブ・ラーニングによる授業づくりを検討するときにも役立てることができると思われる。

引用文献

- 文部科学省 小学校学習指導要領解説 生活編，2008a，日本文教出版
- 文部科学省 小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編，2008b，東洋館出版社
- 文部科学省 小学校学習指導要領解説 総則編，2017，http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/07/12/1387017_1_1.pdf（2017年9月28日）
- 佐伯胖（監修）・渡部信一（編）「学び」の認知科学事典，2010，大修館書店
- 杉江修治（編著）協同学習がつくるアクティブ・ラーニング，2016，明治図書
- 上淵寿（編著）動機づけ研究の最前線，2004，北大路書房